

(対象事業：地域連携強化事業) 地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：中世文化財を活用した地域連携事業

事業者名：中世文化財を活用した地域連携事業実行委員会
(中核館：埼玉県立嵐山史跡の博物館)

住所：埼玉県比企郡嵐山町菅谷 7 5 7

TEL：0493-62-5652

FAX：0493-61-1060

HPアドレス：<http://www.ksky.ne.jp/~ranzansi/>

連携事業者名：比企地区市町村教育委員会、深谷市教育委員会、嵐山町、埼玉城郭探訪会、中世を歩く会、埼玉県ウオーキング協会、埼玉県立嵐山史跡の博物館サポータークラブ、東京都葛飾区郷土と天文の博物館、大妻嵐山中学校・高等学校

会場：埼玉県立嵐山史跡の博物館他

事業期間：平成21年6月12日～平成22年3月15日



1. 館の使命と本事業の関係

埼玉県立嵐山史跡の博物館は国指定史跡 比企城館跡群「菅谷館跡」や比企地域の中世城館跡をはじめとする貴重な文化財を、将来にわたり確実に保存・管理するとともに、関係資料の収集、保管、調査研究を進め、その成果を展示等により公開していくことを基本使命としています。今回の事業では、①中世文化財の普及・活用・研究の推進、②中世文化財を活用するためのボランティアの育成と活躍の場の拡大の2つを目的としており、①は館の基本使命、②ボランティアの育成・活用と地域社会との連携による博物館活動の推進を目的とした館の使命に一致しています。

2. 企画内容

①事業目的

埼玉県には埼玉県立嵐山史跡の博物館が所在する菅谷館跡をはじめとする国指定史跡 比企城館跡群や武蔵武士畠山重忠に関する伝説など、数多くの中世文化財が残され、伝えられています。これら文化財のすばらしさをより多くの人々に伝えるために、地元教育委員会及び各ボランティア団体、学校等と地域に根ざした博物館活動を実施します。

②事業概要

地域と連携した事業として以下の6事業を実施します。

- (1) ボランティア研修会：嵐山史跡の博物館で活動しているボランティアに対する研修です。ボランティアのスキルアップを計ります。
- (2) 中世考古学セミナー：市民研修者向けの自主学習のセミナーです。各自テーマを持ち、学習し、年度末には一般公開で研究発表を行います。
- (3) 特別講演会：秩父平氏畠山重忠をテーマに、説経節や踊り等の芸能公演と大学教授による歴史講座等、様々な角度から畠山重忠に迫る企画です。
- (4) シンポジウム：秩父平氏畠山重忠をテーマに最新の研究成果を公開するためのシンポジウムです。
- (5) 史跡巡り：秩父平氏畠山重忠をテーマにして徒歩による史跡巡りとバスを利用した史跡巡りを開催し、歩くことが苦手な人も参加できる機会を設けています。
- (6) 映像資料(DVD)の制作：比企地域に特徴的な城館跡を紹介する映像資料を制作し、生涯学習及び学校教育での地域学習に役立てます。

3. 事業実績

(1) 事業の内容及び日程

①ボランティア研修会の実施

埼玉県立嵐山史跡の博物館で活動しているボランティアに対し、中世考古学、古美術、石仏・石造物の3分野について専門家を招き、最近の研究や基礎調査の方法などの研修を行いました。

7月17日(金) 講師：梅沢太久夫(中世考古学)
「歴史資料館－嵐山史跡の博物館のあゆみ」

9月10日(木) 講師：林宏一(東京家政大学教授)
「武蔵武士ゆかりの仏像」

12月9日(水) 講師：門間勇(石仏研究者)
「石仏から学ぶ」

②中世考古学セミナーの開催

中世考古学をテーマに「武蔵武士と伝承地」「鎌倉街道とその周辺の遺跡」「板碑」「城郭(A)」「城郭(B)」の5つのグループに分かれ、それぞれの課題について調査・研究を進めました。



ボランティア研修会の様子(12/9)

【全体会】

第1回 6月12日(金) グループ分けと学習テーマの設定

第2回 9月11日(金) 中間報告会

第3回 2月 5日(金) 模擬発表会

第4回 3月 5日(金) 研究発表会 発表者20人、聴講者85人

【班学習会】下線の日は講師による資料集作成方法等の指導を受けた日

武蔵武士と伝承地グループ 8月21日、1月8日

鎌倉街道グループ 6月23日、7月14日、11月13日

板碑グループ 7月10日、11月5日、12月11日

城郭(A)グループ 7月24日、8月21日、9月3日、9月15日、11月27日、1月15日

城郭(B)グループ 7月31日、10月23日、11月27日、12月17日

③特別講演会の開催

畠山重忠をテーマとした研究者による歴史講演と、説経節や朗読、地元に伝わる踊り等の芸能公演を交えた催しを実施しました。

開催日時：10月12日(月・祝日) 10時～15時

会場：国立女性教育会館

【歴史講演】

岡田清一(東北福祉大学教授)

「畠山重忠－虚像と実像－」

谷口榮(葛飾区郷土と天文の博物館学芸員)

「秩父平氏 豊島氏・葛西氏の軌跡」

【芸能公演】

東京都無形文化財 三代目 若松若太夫

「説経節 畠山重忠～鶴ヶ峰武勇の段～」

千賀ゆう子(女優・演出家)による語り 「平家の畠山重忠を語る」

川本重忠節踊り同好会 「重忠節 舞台踊り・輪踊り」



ボランティアによる受付風景

④シンポジウムの開催

秩父平氏・畠山重忠をテーマに、最新の研究成果を公開するための一般及び研究者を対象としたシンポジウムを開催しました。

開催日時：1月24日(日)10時～16時

会場：国立女性教育会館

【基調講演】田代脩（埼玉大学名誉教授）

「畠山重忠とその時代」

【報告1】 菊池紳一（前田育徳会常任理事）

「武蔵国留守所総検校職の再検討」

【報告2】 落合義明（東海大学講師）

「秩父平氏の本拠を探る―畠山氏を中心として―」

【報告3】 植木弘（嵐山町教育委員会）

「秩父平氏の聖地―武蔵嵐山―」

【報告4】 村松篤（深谷市教育委員会）「全国に及ぶ重忠伝承」

【パネルディスカッション】

司会：加藤功（武蔵野文化協会理事） 若松良一（埼玉県立嵐山史跡の博物館）

パネリスト：田代脩、菊池紳一、落合義明、植木弘、村松篤



シンポジウムの様子

⑤史跡巡りの開催

秩父平氏・畠山重忠をテーマに、ウォーキングの専門家による指導をうけながらの史跡巡りと、バスを利用した史跡巡りの2種類の手法により実施しました。

【徒歩による史跡巡り】

開催日時：10月4日(日)10時～15時

訪問地：深谷市 畠山重忠史跡公園（畠山重忠墓）他、
約6kmのコース

【バスによる史跡巡り】

開催日時：2月7日(日)9時～16時

（出発・帰着は埼玉県立嵐山史跡の博物館）

訪問地：東京都葛飾区普賢寺（葛西氏ゆかりの宝篋印塔）他



ウォーキング指導の様子

⑥映像資料（DVD）制作

比企地域に所在する国指定史跡比企城館跡群（菅谷館跡・松山城跡・杉山城跡・小倉城跡）及び鉢形城跡、河越城跡、上戸陣跡について歴史的意義や特徴を紹介する映像資料を制作しました。

この映像資料では、実行委員を委嘱した大妻嵐山中学校・高等学校社会科教諭の指導を受け、教科書にある歴史用語（例えば「応仁の乱」「後北条氏」「豊臣秀吉による小田原攻め」など）をキーワードとして組み入れ、学校教育の中での活用がしやすいようにし、学校へは指導案例を添付し、配布しました。また、博物館活動、公民館活動での利用促進をはかるために、選択して映像を見ることができるよう、チャプター編集を取り入れました。さらに、各城跡の所在地を示す地図を入れ、現地見学希望者に対する情報提供を行いました。

（2）参加者の数

参加者人数 延べ 1,344人

内 訳：①ボランティア研修会（3回実施） 延べ39人参加

- ②中世考古学セミナー発表会 発表者20人、聴講者85人
- ③特別講演会参加者 428人
- ④シンポジウム参加者 602人
- ⑤史跡巡り（2回実施） 延べ170人

（3）事業により作成した印刷物等

- ・中世考古学セミナー資料集 300部
- ・特別講演会「畠山重忠一代記～芸能と講演～」ポスター 1,000枚
- ・特別講演会「畠山重忠一代記～芸能と講演～」チラシ 10,000枚
- ・シンポジウム「畠山重忠とその時代」ポスター 1,000枚
- ・シンポジウム「畠山重忠とその時代」チラシ 20,000枚
- ・シンポジウム「畠山重忠とその時代」資料集 1,200部
- ・史跡巡り 「重忠ウォーク」ガイドマップ 400部
- ・DVD「埼玉の戦国城館跡—比企城館跡群を中心として—」 1,000部

（4）実施事業に関する新聞記事等

○テレビ、関連誌等

NHK放送「首都圏ニュース845」

平成21年10月12日（日）20時45分～21時（1分ほど放映）

放送内容は特別講演会「畠山重忠一代記～芸能と講演～」

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

事業の成果として、館の使命において設定した2つの目的は当初の期待どおりの成果をあげることができました。

①中世文化財の普及・活用・研究の推進に関しては、中世考古学セミナー、特別講演会、シンポジウム、史跡巡りなどを実施した中で、アンケート回答者の半数以上が「わかりやすかった」「今後もこのような事業を行ってほしい」との意見を寄せており、満足度が非常に高かったことがわかります。特に、中世考古学セミナーの受講者は「研究仲間ができた」、「今後も博物館活動へ参加し、研究を続けたい」など、受講者・博物館両者にとって大きな成果を得ました。映像資料については、「分かりやすくて良かった」「買いたいんだけど、販売していないのか」などの意見が寄せられ、「中世城郭」に対する興味・関心を高めることにとても役立っています。

②中世文化財を活用するためのボランティアの育成と活躍の場の拡大について、「ボランティア研修会を今後もぜひ実施してほしい」との意見が出され、今後のボランティア活動の意欲を高めることにとても効果がありました。また、特別講演会やシンポジウムなど500人規模のイベントの開催はボランティアの運営サポートなしには実行できずとても大きな成果を得ました。このような協働作業を行うことは博物館に対する愛着を深めることにもつながり、今後のボランティア活動の励みになったと考えます。

今後の課題として、①に関しては、地域と連携した事業展開の継続及び最新の研究成果の公開を行うこと、②に関してはボランティア活動の充実と博物館との連携強化が必要と考えます。

①については次年度以降も近隣市町村教育委員会との共催による巡回展示、研究成果の公開のための企画展示・講演会をおこない、博物館使命の達成度を高める予定です。②に関しては、ボランティアの定例会を月1回設け、博物館職員との話し合いを重ねる中で、研修の実施や新しいボランティア活動を模索し、博物館との連携強化を図っていく予定です。